



当たり前の大切さに気づいた1年間でした。

18日、無事に卒業式を執り行うことができ、多変立派な態度で6年生が巣立っていきました。また、本日1～5年生の子供たちも修了式を終え、吉井北小学校の1年間が終了しました。修了式では、代表の5年船津俊哉くんが限界にチャレンジして乗り越えた経験を発表してくれましたが、とても素晴らしいものでした。この1年を、お礼の気持ちを込めて振り返ってみようと思います。

* コロナ禍による臨時休業と夏休み短縮

何ととってもコロナに振り回された1年間、4/22～5/17の期間、臨時休業を余儀なくされました。代わりに夏休みが短くなり、8/1～23までの23日間でした。子供たちにとっては我慢が多く、楽しみが少なかった1年間だったでしょう。

学習については、昨年度からの臨時休業も含め、今年度の内容も残すことなく、しっかり終わりました。

* 短縮・工夫された行事

授業参観が行えたのは、わずか1回。学習発表会も中止。その中でわずかに行えたのが運動会でした。時間を短縮して行いましたが、意外と好評で、これからの行事のあり方を見直す機会ともなりました。子供たちも、「できなくて残念」ではなく、「この条件で何ができるか？」と視点を変えて頑張り、ピンチはチャンスなんだと痛感した1年でした。

* 制限された異学年交流・対外交流

毎年縦割り活動をとおして子供たちの社会性を高め、絆をつくらせているのですが、今年度は縦割り活動の多くを行えませんでした。また、読み聞かせやチャレンジタイムなど地域の方々との交流、見学学習などの地域に出かけての交流はほぼできず、とても残念でした。そんな中、1年生はオンラインで交流や発信を試み、新しい交流方法を模索しました。

* 新しい学習完全実施へ

今年度から、新しい指導要領の完全実施で、3・4年生は外国語活動が入り、5・6年生は外国語科となりました。本日持ち帰った通知表「ゆめ」にあるように、3・4年生は記述で、5・6年生は教科としてそれぞれ評価しています。本校の子供たちは、外国語は大好きなようです。各教科のねらいや評価の方法も変わっています。変わり続ける社会に、学校も子供たちも学び続けていきます。

* 支えられている学校

入学式・卒業式も短縮バージョンで行い、来賓の方々をお招きできませんでした。地域の方々に学校を開けなかったことは、本当に残念なことでした。そんな中に「学校に行けなくても、学校だよりを楽しみに読んで、学校の様子を見ていますよ。応援していますよ。」ととても温かい言葉をいただきました。改めて地域の方々に支えられていることに気づいた1年でした。

* 当たり前のありがたさに気づいた1年間

朝子供たちが登校してくれること、元気に挨拶をしてくれること、一生懸命勉強してくれること。そんな当たり前の光景が、本当に有り難いことなのだと気づいた1年間でした。当たり前の学校生活を、最大限のご理解とご支援で支えていただきましたご家庭の皆様、地域の皆様、心よりお礼申し上げます。

1年間、ありがとうございました。

